

農業生産工程管理(GAP)をめぐる動向

フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)

第2回 国際標準に関する勉強会

平成27年8月4日

農林水産省

生産局 農産部 技術普及課

「日本再興戦略」におけるGAPの方針

輸出環境整備に焦点

- 輸出の際に、取引相手からGLOBALG.A.P.等の国際的に通用するGAPを取得していることが求められることがある。
- 輸出拡大を図る上では、国際的に通用するGAPの取得を推進する必要。

「日本再興戦略」改訂2014（平成26年6月24日閣議決定）（抜粋）

iii) 輸出の促進等

① 輸出環境の整備

・我が国農産物の食品としての安全性向上と食産業の競争力強化のため、国際的に通用する規格の策定と我が国主導の国際規格づくりに取り組む。例えば、我が国農産物の生産工程管理については、国内で統一されていないことに加え、国際的な商流では受け入れられない場合がある。国内生産基盤の強化とともに海外バイヤーに訴求力のあるものとするよう、本年度から関係者の協議会を設け、輸出促進に向けたGAPの在り方の見直しを行う。

③ 輸出モデル地区・モデル品目等による成功事例の創出

HACCP認証、ハラル認証やGLOBALG.A.P.の取得などの輸出環境整備、卸売市場の活用等に取り組む地域を輸出モデル地区として支援するとともに、牛肉・茶・水産物等について先行して品目別輸出団体を整備することにより成功事例の創出に努める。

「農林水産業・地域の活力創造プラン」におけるGAPの方針

農林水産業・地域の活力創造プラン(平成26年6月24日改訂)(抜粋)

1 国内外の需要を取り込むための輸出促進、地産地消、食育等の推進

③ 国内外の需要の取り込みの前提となる食の安全と消費者の信頼確保

・輸出促進に向けた輸出検疫の情報提供・利便性向上、検疫協議の戦略的な実施、輸出に取り組む事業者等に対するEU向けHACCP、GLOBALG.A.P.、ハラール等の認証の取得を支援するとともに国際的に通用する規格の策定と国際規格化を推進(輸出用GAPの共通化に向けた国内関係者との意見交換の実施、HACCP等の食品に関する標準戦略の検討)

・国際的な民間取引の場では「GFSI」の承認スキームが活用されている状況

GFSI (Global Good Safety Initiatives : 世界食品安全イニシアチブ)

(理事：イノバ、カーギル、コカコーラ、ダノン、ウォルマート等)

グローバルな食品小売等の事業者からなる国際的な民間団体。

食品安全に関する規格の承認を行っている。

農産物については、GLOBALG.A.P.の他、SQF、CANADAGAP、PrimusGFSの4つが承認済み。

「食料・農業・農村基本計画」におけるGAPの方針

輸出だけでなく、食品安全の確保や技術革新にも言及
様々な場面でGAPの活用が有効

(1) 国際的な動向等に対応した食品の安全確保と消費者の信頼の確保

① 科学の進展等を踏まえた食品の安全確保の取組の強化

ア 生産段階における取組

(前略) 農業者や産地において、農業生産工程管理 (GAP) の導入が進んでいるものの、取組の水準にばらつきが見られることから、農林水産省のガイドラインに則した一定水準以上のGAPの普及、拡大を推進する。

(4) グローバルマーケットの戦略的な開拓

① 官民一体となった農林水産物・食品の輸出促進

イ 輸出阻害要因の解消等による輸出環境の整備

(前略) 具体的には、輸出先となる国や事業者等からも求められる、HACCP、ハラール、GLOBAL G. A. P. 等の認証取得を促進する。また、国際的な取引にも通用する (中略) GAPに関する規格・認証の仕組みの構築を推進する。

(7) コスト削減や高付加価値化を実現する生産・流通現場の技術革新等

② 先端技術の活用等による生産・流通システムの革新

イ 需要に応じた生産や高付加価値化を進めるための技術導入

(前略) 総合的病害虫・雑草管理 (IPM) やGAPの導入により、栽培管理や営農管理の改善、合理化を進める。

「GAP戦略協議会」

- 日本再興戦略において、「関係者による協議会を設け、輸出促進に向けたGAPの在り方を見直す」こととされている。
- 一方、国内に向けても、生産者へのGAPの普及導入、実需者に向けたGAPの活用等の検討が必要。
- GAPの課題解決に向けた議論を展開する場として「GAP戦略協議会」を設立。

平成27年3月19日 GAP戦略協議会 設立

協議会構成員

学識経験者、農業者、農業団体、実需者（流通・小売）
GAP運営・普及団体、認定機関、マスコミ 等

検討事項

- ・ 食品安全・環境保全・労働安全確保等のためのGAPの活用の促進
- ・ 輸出促進に向けたGAPの推進
- ・ GAPガイドラインの改訂、普及、浸透
- ・ 国内の農産物取引におけるGAPの活用 等

参考サイト

http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/g_kaigi/index.html

「GAP戦略協議会」

第1回 GAP戦略協議会における主な意見

【国内のGAPの普及】

- GAPは安全な農産物を持続的に供給するためのものであり、当然のこととして取り組んでほしい。
一方、普及のためには農業者のメリット、実需者のニーズも得る必要。
- 買い手側が優先購買を進めば普及は進むだろうが、消費者に対してどのように説明するかが課題。
- 市場を経由すると、GAPに取り組んでいるかどうかわからなくなる。
- 様々なGAPが乱立しており、考え方も様々。ガイドラインを踏まえて生産することが重要。一方、消費者に対しては、GAPを広く認識してもらう必要がある。

【輸出に向けたGAP】

- 海外の買い手はGLOBALG.A.P.等を取得した農産物を求める傾向が高まっているが、日本ではその必要性を考えていない農業者が多い。
- 日本の取組水準は低くないが、国際的に通用するよう客観的に証明するシステムの必要性が普及していないことが課題。

GAPの普及推進に向けた取組

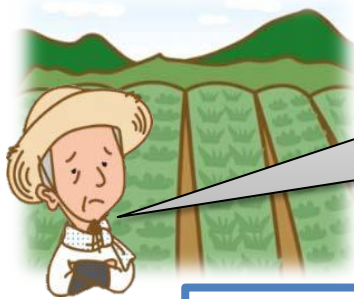
国内のG A Pの普及

- ・生産者に対するG A Pの導入を推進するため指導者や生産者リーダーの養成を支援
- ・さらに生産者だけでなく、実需者等も含めてG A Pの取組を行うことで、G A Pの取組を販売拡大、輸出につなげる取組を支援

輸出促進に向けた取組

- ・輸出の際には、取引相手（大手小売業者）がGLOBALG.A.P.を求めることが多くなっていることから、国内農業者がその認証を取得しやすくするための検討を実施
- ・さらに、輸出環境整備に向けて、G A Pガイドラインをもとにした国際的に通用する我が国発のG A Pを策定することも有効なことから、輸出用G A Pの策定に向けた検討を支援

実践農業者の声



これまで問題はなかったし、危ないものは作ってないよ
ちゃんと安全なものを作ってるよ

**「私が作る農産物は安全」ということを
客観的な根拠をもって示すことができるでしょうか**

- ・流通業者側からの要求にもしっかりとした対応ができるように準備する必要。
- ・グローバル化した社会においては、海外のニーズにも対応して、高品質かつニーズにあった農産物でアピールすることが有効



- ・今後は、「俺の作り方なら大丈夫」という考えから、「このように扱っているから安全だよ」と示せることが必要。
- ・日本の高品質なものを世界の人に食べてもらうためには、客観的な根拠をもって安全性を示す必要がある。GAPはそのためのツール。

ますます高まるGAPの重要性

安全・安心や環境配慮の関心の
高まり

→消費者や流通・小売業者の信頼確保
のためにGAPが有効。

法人化・規模拡大への対応

→雇用管理、情報管理のために
GAPの取組が有効。

輸出拡大、新たな販路の開拓

→グローバル化に対応するために
GAPの取組が有効。
認証の取得が必要なケースもある。

訪日観光客（インバウンド）
の増加

→文化の異なる海外の方々に安心でき
る農産物を提供するためには客観的
に安全性を証明することが重要。

生産者だけでなく、流通業・小売業にとっても、
G A Pの重要性は高まっている

ご清聴ありがとうございました